



農 林 業 の 振 興

けむり やま くん ろう
煙 山 薫 朗

(77才)

現住所

仙北郡千畑村

煙山氏は、昭和23年に酪農組合を創設して乳牛を導入、以来その普及指導にあたり今日の雄平仙集約酪農の基礎を確立した。また「ベニヤマザクラ」の新品種を開発し苗木の育成とその植栽を奨励する一方、広く学校、公園、観光地等に寄贈するなど地域社会のために寄与した。さらに栗の研究に専念し「千秋甘栗」の新品種をつくり出し、その普及につとめるとともに「アカシヤ」の増殖と改良にも献身努力し、養蜂業の振興に尽くすなど本県産業の発展に大きく貢献した。



結核予防と地域文化の 高揚

さ さ き ちゅう ろう
佐々木 忠 郎

(74才)

現住所

由利郡岩城町

佐々木氏は、昭和3年に医院を開業して以来地域医療に専念、特に昭和15年に先づ自分の家族、親類の者にツベルクリン反応を接種、翌16年には全国にさきがけて亀田全町民に対し集団ツベルクリン反応とBCGの接種を実施するなど、積極的に結核予防思想の普及と治療にあたり地域住民の健康保持に尽くした。

また、旧藩時代から続いている「田螺会」のリーダーとして会の指導育成に努力したほか、昭和16年から自作の俳句を編集して「亀田風景」を自費出版するなど俳句、短歌、詩等を通じて地域住民の文芸への関心を高めた。一方「城門の会」を創立、自ら主宰し郷土史の研究、文学の研修、学習会を開催するなど郷土の発展と社会教育に大きく貢献した。



幼児教育の推進

こ ばやし みさお
小 林 操

(67才)

現住所

北秋田郡鷹巣町

小林氏は、昭和16年に鷹巣教会教会堂を借用して保育園の開設し、自ら主任保母として園児の保育に専念するかたわら独立園舎の建設、設備の拡充に努め、また、地域の共稼ぎ家庭の要望に応え乳児の保育を手がけるなど乳幼児教育のために献身努力した。特に昭和35年園長に就任してからは遊び場の拡張、園舎の増改築、職員の増員を積極的に推進し保育の充実に努めるとともに鷹巣町母子福祉会会長、民生児童委員、町青少年育成協議会委員、郡家庭児童相談室協力員として児童福祉の向上に尽くす一方県母子福祉連合会副会長の要職にあつて県内母子家庭の指導にあたるなど地域住民の福祉の向上に大きく貢献した。



中山人形の製作と研究

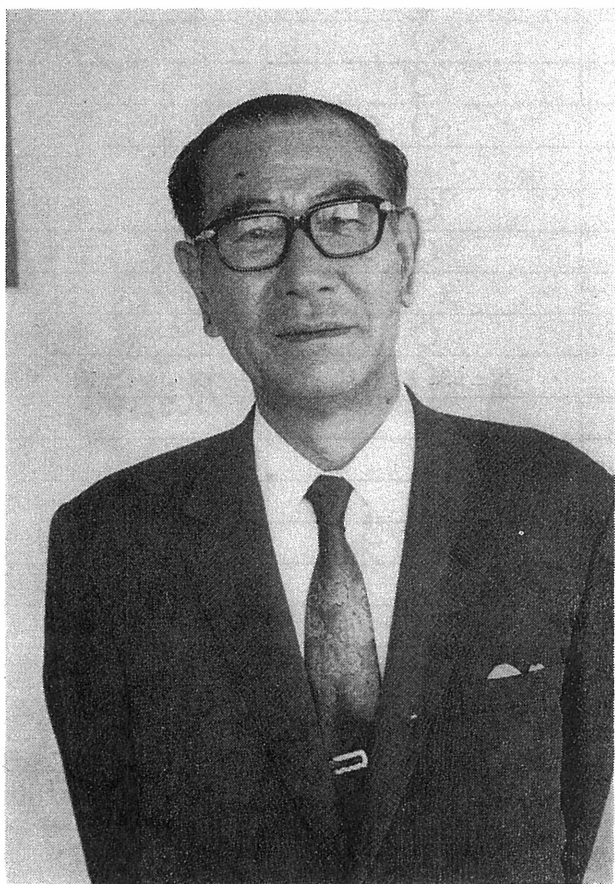
ひ 樋 わたし 渡 ぎ 義 いち 一

(67才)

現住所

横手市

樋渡氏は、大正7年以來50有余年にわたって中山人形の製作にたずさわり、この間
伝統の技法を生かし郷土秋田の詩情豊かな風俗行事等を題材とした新しい民芸品とし
て郷土人形の製作に新境地を築いた。また、昭和39年の東京オリンピックに際しては
中山人形が全国観光土産品審査会の入賞作品として、日本の代表的民芸品に選ばれ広
く海外に郷土秋田を紹介するなど観光産業の振興発展に大きく貢献した。



農業の振興と農業団体の育成

は せ や ま こ う き
長 谷 山 行 毅

(64才)

現住所

秋田市

長谷山氏は、昭和23年県生産農業協同組合連合会長に就任して以来、引続き県指導農業協同組合連合会、県農業協同組合中央会長として24年間にわたり、農業協同組合および連合会の強化育成に尽力し、特に戦後最も多難とされた農協の再建整備、不振組合の育成指導、さらに農協の合併を積極的に推進するなど巾広い農政活動により農業団体の健全な育成をはかり名実共に農民の社会的、経済的地位の向上と本県農業の発展に大きく貢献した。



能楽謡曲の普及指導

さわ 木 げん きち
沢 木 元 吉

(62才)

現住所

男鹿市

沢木氏は、日本古来のすぐれた古典芸術である能楽と謡曲の普及を念願とし、重要無形文化財、人間国宝である後藤得三氏に師事し喜多流の正教授となつてから私財を投じて演能をはじめ、昭和36年からは毎年師匠の後藤得三氏を招いて演能するなど県文化の向上に尽くした。

能楽協会員が一般市民を対象に演能し普及指導に努めているのは全国で沢木氏ただ一人で、氏の努力により難解とされてきた能楽をようやく県民に定着させた。また能楽三流合同会長、県芸術文化協会副会長、県謡曲連盟会長として県内邦楽界の育成発展に大きく貢献した。



スポーツの振興

こ だま まさ み
小 玉 正 巳

(61才)

現住所

南秋田郡飯田川町

小玉氏は、レスリングが日本に紹介されて間もない昭和13年に県アマチュアレスリング協会を創設、戦争のため一時中断したが昭和24年に再び協会を設立、同時に自ら小玉レスリング道場を開設しレスリングの道一筋にその普及振興に献身努力した。この間昭和25年には初の国際試合として日米親善レスリング大会を誘致、さらに数多くの競技会を開催するなど社会体育として普及向上に専念し、本県レスリングを全国的水準に高める一方、佐々木竜雄、柳田英明、石田和春等の世界的有名選手を育成した。

現在は県レスリング協会長、日本アマチュアレスリング副会長、日本社会人アマチュアレスリング会長としてスポーツの振興に大いに活躍している。



音楽の普及指導

カンパネラ・コール

代表者 伊藤 由雄

指揮者 木内 博

カンパネラ・コールは、昭和22年世相が混乱している中で合唱を通じて市民の心を豊かにしようとして秋田市に合唱団として誕生した。以来この精神は25年を経た今日に至るまで連綿として受け継がれ、これまで合唱団に参加した市民は延べ500人にも及び発表曲数は約700曲に達している。

この間定期発表会の開催、県芸術祭、県民芸術劇場への参加、テレビ、ラジオ放送、各種施設への慰問合唱などを通じて本県音楽の振興に大きく貢献したほか、一方において合唱音楽の水準高揚のため研究会を開催したり、一般県民の指導にあたるなどその普及振興に多大な実績をあげている。

特に昭和43年に製作された「大いなる秋田」の演奏公演では中心的な役割を果たし活躍している。